

小学五年

国語

解答と解説

1

問一	ウ	21
問二	②	
	イ	
	⑧	
	エ	22
問三	エ	23

問四	A	
	日頃から	
	はず	
	B	
	めずらし	24

問五	趣味を無理	25
問六	ウ	26

問七			
ち	那	そ	心
。	彩	れ	か
	た	を	ら
	ち	ひ	夢
	を	た	中
	う	む	に
	ら	き	な
	や	に	れ
	ま	追	る
	し	い	も
	く	か	の
	思	け	を
	う	て	持
	気	い	ち
	持	る	、

問八	イ	31
問九	ウ	
問十	ア	32
問十一	ア	33
	ア	34

2

問一	1	
	脳科学的	
	的	
	手	35
2	ア	
	イ	
	ウ	
	エ	
	オ	36

	5	4	3			
⑥	①	①	①	問七	問六	問二
規則	和服	ウ	ウ	ウ	A	②
⑦	②	②	②	問八	集中	③
世紀	肉眼	エ	イ	ア	力	ア
⑧	③	③	③	問九	B	④
飛	面接	イ	エ	情報	検	ア
⑨	④	④	④	を	索	⑤
単独	民営	オ	イ	記	す	イ
⑩	⑤	⑤	⑤	憶	る	問三
保	暴挙	ア	ア	工	の	工
⑪	⑥	⑥	⑥	問十	C	問四
⑫	⑦	⑦	⑦	工	思	ア
⑬	⑧	⑧	⑧		考	問五
⑭	⑨	⑨	⑨		力	ウ
⑮	⑩	⑩	⑩			⑥

(配点)

{ ⑪〔問七〕 8点、〔問十〕 2点、他各5点 }
 { ⑫ 各5点 }
 { ⑬⑭⑮ 各2点 }

} 計150点

【解説】

1 瀧羽麻子「ひこぼしをみあげて」（偕成社）から出題しました。千春と那彩が本音を打ち明けあえる友達になっていく様子が描かれています。セリフだけでなく、動作や表情からも心情を丁寧に読みとりましょう。

問一 B1 具体化 比較

——線①の「宇宙のどこかをさまよっているみたい」とは、先生に感想を問われて「頭が働かないまま」口をついて出た「すごく、きれいでした」という表現から、千春が宇宙の美しさに魅せられてぼんやりしているのだと読みとれます。よって、答えはウです。ア「那彩たちと一緒に星を：幸せ」、イ「説明にひるんで」、エ「知識の少なさを実感し恥じて」などがこの部分からは読み取れません。

問二 B1 関係づけ 比較

②の直前に「余韻を味わうかのよう」とあることから、イ「うっとり」と「あてはまりません」が一致することから、④の直後に「言いきって」とあることから、那彩は確信を持って「初心者だつて」と言っていることがわかります。よってここにはエ「きっぱりと」が入ります。

問三 B1 理由 比較

——線③に「いたずらっぽく目くばせ」とあります。「目くばせ」とは、目つきで知らせること、目と目で合図をしようこと、という意味です。その直前で千春が那彩に「きれいだった」と先生に伝えたのと同じ感想を言っていることに注

目しましょう。「きれいだった」という「小さい子の感想みたい」なことしか言えないと気にしていた千春を、先生はそれが「すべてのはじまり」と認めてくれました。だから、千春は那彩に「きれいだった」という自分の素直な感想を伝えられたのです。このことから、答えはエです。ア「がっかりした」、イ「感想を言わされている」、ウ「おじけづいている」の部分それぞれ本文からは読み取れません。

問四 B1 具体化 関係づけ

戸惑うのは、思っていたのと違うことがおこったときに生まれる感情です。——線④の直後にあるように、「那彩は日頃からずばずばとものを言うのに、めずらしい」から、戸惑ったのだと考えられます。この部分を使つてあてはまる言葉を抜き出しましょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問五 B1 具体化 関係づけ

——線⑤の直後に「千春に、無理させてないかなって」とあることに注目しましょう。那彩がこれほどまで「無理させてないか」と気にしているのは、小学校のときの失敗があるからです。那彩の告白を読み進めていくと、「他人の趣味を無理やり押しつけられたら、あたしだっていやだ。これからは：気をつけよう、と心に決めた」と失敗と反省が示された部分があります。この部分を利用して、あてはまる言葉を抜き出しましょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解と

します。

問六 **B1** 具体化 比較

——線⑥「ぐいと顔を上げ…目を合わせた」から、那彩が心を決めていること、何か覚悟を決めたということを読みとりましょう。自分の過去の失敗や心の傷を正直に話した上で、謝罪し、千春の本当の気持ちを聞いています。ですから、答えはウです。ア「煮え切らない返事をくり返す」「いらだち」「許してくれるだろうという自信を深めて」、エ「千春も正直な気持ちを話すべきだと…伝えようと」などの部分が本文からは読み取れません。

問七 **B2** 具体化 推論

千春の「素直な気持ち」とは——線⑦の直後にあるように「うらやましかった」という気持ちです。誰のどのような点をうらやましく思っていたか、ということはさらにその後に表示されています。「心から夢中になれるものを持ち、それをひたむきに追いかけている那彩たちが、わたしはうらやましかったんだ。豊富な知識だけじゃなくて、その圧倒的な情熱も」の部分です。「豊富な知識」についてはリード文に示されているので、那彩たちの「圧倒的な情熱」すなわち「心から夢中になれるものを持ち、それをひたむきに追いかけている」ところをうらやんでいた、ということを示せば記述は完成します。どのような気持ちか、と問われているので、文末は「〜気持ち。」としましょう。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二

つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

問八 **B1** 具体化 比較

直後の二階堂先輩の二つのセリフを読みましょう。「くわしいとかくわしくないとか…気にする必要ってあるかな」「…心配しなくても、知識は勝手に増えると思うよ」の部分です。そしてそれを千春は「励ましてくれてありがとうだ」と感じています。知識のあるなしを気にする必要がない、ということにふれられているのはイ・ウです。エはそのことにふれられていません。ア「那彩と千春の…多いか少ないかで争っている部分」が本文から読みとれません。ウ「先輩のことまで初心者とか言っちゃって」と謝った那彩に先輩は「それは別にいい」と言っているので「初心者呼ばわりした」の部分が不適切です。

問九 **B1** 関係づけ 比較

二階堂先輩のセリフの「勝手に増える」の直前に「心配しなくても」とあることに注意しましょう。天文が好きで、楽しんで学んでいけば「心配しなくても、知識は勝手に増える」と言っている「勝手に増える」という言葉は、気楽にいけど励ます文脈で使っているのです。選択肢の中でプラスの意味の言葉はウです。

問十 **A2** 知識 比較

「おもむろに」はよく意味を問われる語ですが、「あわてずにくっく」という意味です。

問十一 **B1** 理由 比較

直前に「：けんかしないで」「え？」とあることから、思
いもしないことを言われて驚いていることがわかります。ま
た那彩が「いいこと言ってくれてたのに、惜しい」と言っ
ていることから、「いいこと言ってくれ」た、と思っていたのに、
身に覚えのないけんかを先輩がとめようとしてきたことがあ
まりに予想外で驚いたのでしょうか。ですから答えはアです。
イ「伸を疑う」「部員のことは：見えていないのだと思ひあ
ぎれた」、ウ「二階堂先輩が伝えたかったのは初心者同士の
論争はむだだということ」、エ「二階堂先輩自身の考えをま
とめるために話していた」の部分が本文の内容とあいません。

2 榎本博明「思考停止」という病理 もはや「お任せ」の姿勢は
通用しない(平凡社)からの出題です。前半ではゲームが

知的発達を阻害するということと、その実証研究の内容が、
後半ではスマホの使用が生む弊害と、その実証研究の内容が
が示されています。少し長めの文章ですし、難しい言葉もあ
りますが、どこかで耳にしたことがあるような内容であり、
文章の構造も複雑ではありません。何の話をしているのか、
ということに留意しながら落ち着いて読み進めましょう。

問一

1 **B1** 具体化

「ゲームが脳の発達に与える影響」についての調査は、
五段落からはじまっています。ここで問われているのは、
その調査方法ですので、五段落の一文を抜き出せばよい
ということになります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解
とします。

2 **B1** 具体化 比較

ここで答えるのは「その調査からわかったこと」すな
わち、「結果」です。結果は、六段落から八段落にかけ
て示されています。七段落の冒頭に「さらには」とある
ので、一つ目の結果は六段落に、二つ目の結果は七段落
と八段落に示されていることがわかります。六段落の内
容はイ、七・八段落の内容はエです。ア・ウはこの調査
でわかったことではありません。オは「活性化するとい
うこと」の部分が不適切です。

問二 **B1** 関係づけ 比較

②の直前に「子どもがゲームをすることの弊害が指摘
されているが」とあるので、②には「子ども」、③
には「大人」が入ります。⑤の直前に「まだ：脳の部位
の発達途上にある」とあるので、⑤には「子ども」が入
ります。よって、④には「大人」が入ります。

問三 **B1** 関係づけ 比較

⑥「ゲームをすることが脳の発達に悪影響をもたらす
ことは、⑥指摘されている」とありますが、ここには、「た
びたび」「しばしば」などの言葉が入ります。⑧の直前
の「こうした動き」とは、ゲームは人々に悪影響を及ぼすも
のと知りながらゲーム市場を拡大する動き、のことですから、
「思考停止の傾向」は「ますます」「だんだん」強まってい

でしょう。⑪の直前に「どこかで」とあるので、「うすうす」を入れるのがふさわしいでしょう。よって、答えはエです。

問四 B1 関係つけ 比較

⑦の直後に「脳画像によっても実証されているのである」とあります。脳画像をつかっていたのは、五段落から七段落にかけての調査においてです。ここでは、ゲームを長時間することが脳に悪影響を及ぼす、という結果が出ていました。ですから、答えはアです。エは調査の結果の一部しか示せていませんし、「細胞の密度が低い」ことが「教育心理学的な見地からも指摘されてきた」とは言いにくいでしょう。

問五 B1 具体化 比較

この場合の「シリコンバレー」は、「シリコンバレーで働いている人」という意味でしょう。すなわち、IT企業のトップや技術者です。この直後に示されているように、彼らはスマホの弊害を認識し、自分子どもには使わせないようにしています。その一方で彼らは、スマホを作り広く売りさばき、多くの人々にスマホをつかわせています。だから「罪悪感」でいっぱいになっているわけです。このことにふれられている選択肢はウです。ア「シリコンバレー」にふれられていません。イ「罪悪感」にふれられていません。エ「シリコンバレー」をしつかり説明できていませんし、罪悪感「自分がスマホを使うこと」に対して持つて持っているわけではありません。

問六 B2 具体化 関係つけ

線⑩の次の段落に「スマホを使うことの弊害」が示されています。そこには「集中力の欠如も、検索習慣も、いずれも思考力の低下につながっていく」とあります。「検索習慣」は「検索するの癖」と同じ意味だと気づけると、Bにあてはまる言葉がわかるでしょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問七 B1 関係つけ 比較

このデュークたちの実験的研究の結果から言えることは、線⑭の二つ前の段落に示されています。そこには、「この実験結果から言えるのは、スマホをいじらなくても、ただそばにあるだけで認知能力が低下してしまうということである」とあります。これと同じ意味の選択肢はウです。

問八 B1 具体化 比較

この実験は「スマホをいじらなくてもそばにおいておくだけ」という状況を作り出す必要があるのです。スマホをいじらなければならぬようなことが起きないようにしたのだと考えられます。つまり、自分からいじらなくても、誰かから電話やメールの着信があったことを知らせてくれる音やバイブレーション機能を切ったのだと考えられます。ウは、これは実験ですから、「周りの人の迷惑にならない」というようなマナーの問題ではなく、着信音などで「自分をふくめ周り」の実験対象者の気が散ったり、自分が電話を受けたりすることのないような状況を作ったと考えるほうが自然です。エは

「電源を切る」パターンの実験になります。

問九 B1 具体化 関係づけ

——線⑭の次の段落に、「ワーキングメモリというのは、ごく短時間、情報を記憶しながら、同時に何らかの課題遂行などの処理をする知的機能のことである」と示されています。リード文にそって、この部分から適当な言葉を抜き出すとよいでしょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問十 B1 具体化 比較

「そのような」とあるので、この自己コントロール力とは、——線⑮直前の「その（スマホの）弊害を意識しながら賢く利用する」力だと考えられます。ですから、答えはエです。ア「一切利用しない」、イ「人類のためになるか」の部分が本文からは読み取れません。ウスマホは「ただそばにあるだけ」認知能力を下げるものなので、「認知能力…高められるように、賢く、工夫して…使う」ことは不可能です。

③ A1 知識 比較

三字熟語の問題です。一番上の打ち消しの意味を持つ漢字が下の二字の熟語を打ち消す、という形になっています。

④ A2 関係づけ 比較

「たぶん〜だろう」や「もし〜ならば」「ぜんぜん〜ない」のように、後にくる言葉がセットになっている副詞を「呼応の副詞」といいます。出題したものは、頻出のもので、できなかつたものについてはきちんと確認しておきましょう。④の「よもや」は「まさか」と同じ意味で使われる言葉です。